



中国経済連合会では、地域経済の競争力強化に欠かせない、製造現場のデジタル化推進リーダーを育成するための取り組みを進めており、この一環として、ファクトリーサイエンティスト協会と連携し、本講座の受講生の募集を行います。

本講座では、実際に自社現場へのIoT導入による見える化・課題解決を通して、データ収集・活用の技能および知識を学習します。（詳細は裏面参照）

本募集にて申し込みされた受講生については、受講料の一部を補助いたしますので、ぜひこの機会に受講をご検討ください。

1. 募集概要

(1) 募集対象の講座

講座名	開催日程
第23回講座	2025年 1月22日～ 2月19日 (講座開催日：1/22, 1/29, 2/5, 2/12, 2/19)

(2) 募集定員：15名

(3) 募集期間

2024年12月23日（月）まで

(4) 受講料の補助：補助金額 50,000円

〔参考〕受講料（ファクトリーサイエンティスト協会非会員）132,000円（税込）

2. 申し込み方法

(1) 以下のURLもしくはQRコード（マイクロソフトフォーム）から、受講者のエントリーをお願いいたします。

<https://forms.office.com/r/F6LN0nr8Vm>

※申込時に提供いただいた個人情報は、本講座の運営のみに使用します。



(2) エントリーされた受講者に対して、当連合会からファクトリーサイエンティスト協会への受講申し込み手続きについて、ご案内いたします。

受講に関する事務手続き（受講申し込み、受講料の支払い、教材の受け渡しなど）については、ファクトリーサイエンティスト協会と、直接やり取りを行っていただきます。

3. 補助金の請求手続き

補助金の請求手続きは、当講座受講修了後に行っていただくことになります。

受講修了後、ファクトリーサイエンティスト協会から「認定証」が授与されますので、その写しを当連合会へ提出していただくとともに、補助金請求の手続きをお願いいたします。

本請求に係る事務手続き等については、別途、当連合会から個別にご案内いたします。

・本募集に関するお問い合わせ：一般社団法人中国経済連合会〔担当：永安（ナガヤス）〕

TEL:082-548-8526

E-mail:zh-naga@pnet.gr.energia.co.jp

・講座内容や受講環境等に関するお問い合わせ：一般社団法人ファクトリーサイエンティスト協会

HP:<https://www.factoryscientist.com/>

E-mail:office@factoryscientist.com

【ファクトリー・サイエンティスト育成講座の概要】

ファクトリー サイエンティスト 育 成 講 座

全5回の講座で、「自身の現場を題材にして、自らの困りごとの解決策を考え、つくる」ことを実践します。ファクトリーサイエンティストに必要な3つのスキル（データエンジニアリング・データサイエンス・データマネジメント）の基礎を4週間かけて学び、得られた結果を元に最終プレゼンテーションを行います。



デジタルに手触りを感じる5週間

「IoTの知識と体験」「クラウドサービス」「センシングしたデータのビジュアライゼーション」「データと連動したアプリケーション」について、4週間かけて学びます。講座中は、全体で受講する座学セッション、グループに分かれて実際に手を動かしながら進めるハンズオンセッションと、知識の吸収と実践を繰り返します。

並行して各自の課題やアイデアを実際に構築し、5週目のプレゼンテーションに向けて準備を進めます。例題をこなし、正解を求めるのではなく、目の前にある課題を解決する方法を模索、試行錯誤する5週間ともなります。

言語化する能力

「データを取得する仕組みが構築できる」「見える化できる」がゴールではなく、「今後どうしていくべきか?」「何が変わっていくのか?」といった、少し先に期待できる効果までを考え、周りを巻き込みながら伝えていくことも重要としています。



コミュニケーションの重要性

グループごとに担当TA (Teaching Assistant) が付き、講座の内容から最終課題に向けたアイデアに対するアドバイスまで伴走します。講座以外の時間はチャットツールを使用し、コミュニケーションを取りながら最終発表の準備を進めます。

また、同時に他の受講者のアイデアや状況も共有されるため、互いに共感したり、情報交換するなど他者と交わる機会も多いです。

異なる背景を持つ講師陣の存在

ファクトリーサイエンティストには、幅広い視界が求められます。知識を伝えていく講師陣は、製造業従事者だけではなく、プログラマー、デザイナー、設計・開発といった多様な背景を持っています。そのため、受講生は様々な視点からの物事の捉え方も学べます。

また、生成系AIの活用など、新しい技術・知識を常に取り込み、実際に利用した上で情報提供を行っています。

